

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助の理論と方法Ⅲ Theory of SocialworkⅢ		2年	前期	金曜・5限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
井上 美和	非常勤講師室	授業中に指示します	授業中に指示します	
授業の概要				
ソーシャルワークの主な業務内容である「相談援助」について、理論、技術、方法を概説する。その中でも本講義では、ケースマネジメントやグループワーク等を取り上げ、相談援助過程について学習することとする。また相談援助に不可欠な社会資源について学習し、その活用方法を学ぶ。				
授業の到達目標				
①相談援助の意義と形態を理解することができるようにする。 ②ケースマネジメント、グループワークの基礎的理論と過程を理解することができるようにする。 ③社会資源を活用する意義、方法を理解することができるようにする。				
授業の方法				
相談援助について、テキストや視覚教材を用いて講義形式で学ぶ。また演習やグループ学習の時間を設けることにより、相談援助技術を体験、習得する。				
学習の成果				
①相談援助の意義と形態を理解し、ソーシャルワーカーの業務内容について理解することができる。 ②相談援助の基礎的理論と過程を学ぶことで、援助技術の活用の仕方を理解することができる。 ③自分自身の周囲の社会資源について、理解、考察することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業のねらいと進め方、成績評価について等の説明			
第2回目	相談援助における対象の理解			
第3回目	ケースマネジメント① ケースマネジメントの基本・過程			
第4回目	ケースマネジメント② アセスメントの特徴 <演習>			
第5回目	ケースマネジメント③ ケアプランの作成・実施の特徴 <グループ学習>			
第6回目	ケースマネジメント④ ケアプランの作成・実施の特徴 <グループ学習>			

第7回目	グループを活用した相談援助① グループワークの意義、目的、過程 <演習>		
第8回目	グループを活用した相談援助② ビデオ「12人の怒れる男」		
第9回目	グループを活用した相談援助③ ビデオ「12人の怒れる男」 <グループ学習>		
第10回目	コーディネーション		
第11回目	ネットワーキング		
第12回目	相談援助における社会資源① 種類		
第13回目	相談援助における社会資源② 地域の社会資源 <グループ学習>		
第14回目	相談援助における社会資源③ 地域の社会資源 <グループ学習>		
第15回目	まとめと定期試験		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		30%	①テキスト、配布資料を毎時間持参しているか、②演習やグループ学習において積極的に参加しているか、③集中してノートをとっているか、を評価基準とする。
レポート			
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		70%	授業内容を理解しているか、また当該科目の目標をどの程度達成できているかによって評価する。
発表内容（態度含む）			
その他			
教科書と参考図書			
社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第2版』 中央法規 2012年			
履修上の心得・ルール			
日頃から自分自身、家族、地域等のあり方に興味、関心をもって、積極的な態度で授業に臨んで下さい。教科書は必ず毎時間持参して下さい。			